

2022年7月16日(土)～9月25日(日)

第1～第5展示室

札幌に生まれ、18歳で上京して、日本の近代洋画史にひときわのきらめきを放った三岸好太郎（1903－1934）。彼が画家として駆け抜けた1920-1930年代は、激動と変転の時代でもありました。そのうねりのなか、わずかに十数年の短い画業、そして31歳という夭折の生涯で、三岸は何を見つめ、何に心踊らせていたのでしょうか。

近代化、工業化、都市化が生む繁栄や享楽や華やかさの一方、災害、恐慌、弾圧など、不安や不穏、暗雲の気配も漂っていく時代。

本展では、そうした大正期から昭和初期にかけてのうつりゆく世相・文化のトピック、多様な美術の動向などを手がかりに、鋭敏な感覚で変貌を重ねた三岸と、国内外の同時代の画家たちの秀作を展示します。

展示作品・資料

道産子・三岸好太郎				展示室1
作家名	作品名	制作年	技法・材質	
1※	有島武郎 やちだもの木立	1914(大正3)	油彩・ボード	
2	三岸好太郎 小学校時代の水墨画	1914(大正3)	墨・水彩・紙	
3※	林 竹治郎 校庭	1916(大正5)	油彩・キャンバス	
大志を抱いて上京—そして模索の時代				展示室2/展示室3
4	三岸好太郎 大塚仲町風景	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
5※	俣野第四郎 下板橋(2)	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
*	岸田劉生 『劉生畫集及藝術観』	初版1920(大正9)	書籍	
6	三岸好太郎 童女花持てる図	1923(大正12)	油彩・ボール紙	
7	三岸好太郎 赤い肩かけの婦人像	1924(大正13)	油彩・キャンバス	
8	三岸好太郎 机上の静物	1925(大正14)	油彩・板	
9	三岸好太郎 兄及び彼ノ長女	1924(大正13)	油彩・キャンバス	
10	三岸好太郎 檸檬持てる少女	1923(大正12)	油彩・ボール紙	
11※	俣野 第四郎 静物(1)	1923(大正12)	油彩・キャンバス	
12※	俣野 第四郎 裸婦		油彩・キャンバス	
13	三岸好太郎 裸体	1925(大正14)	油彩・キャンバス	
14*	稲垣 知雄 爆破のあと	1923(大正12)	木版・紙	
15※	武藤 六郎 永代橋		木版・紙	
16※	平塚 運一 雪のニコライ堂	1930(昭和5)	木版・紙	
17	三岸好太郎 ニコライ堂	1931(昭和6)	油彩・板	
18※	俣野 第四郎 大連市郊外	1924(大正13)	油彩・キャンバス	
19	三岸好太郎 上海風景	1926(大正15)	油彩・キャンバス	
20	三岸好太郎 中国の少女	1926(大正15)	油彩・キャンバス	
「モダン」な時代				展示室3
21※	山村 耕花 踊り・上海ニューカルトン所見	1924(大正13)	紙・木版	
22※	小早川 清 ほろ酔い	1930(昭和5)	紙・木版	
23※	久本 春雄 手袋の女	1921(大正10)	絹本彩色	
24※	片岡 球子 鳩と少女	1934(昭和9)	紙本彩色	
25	三岸好太郎 黄服少女	1930(昭和5)	油彩・キャンバス	
26	三岸好太郎 陽子像	1927(昭和2)頃	油彩・キャンバス	
27	三岸好太郎 ラケットをもつ少年と少女と犬	1922(大正11)頃	油彩・ボール紙	
28※	前川 千帆 『野外小品』テニス	1928(昭和3)	リノカット・紙	
29※	前川 千帆 『野外小品』犬	1929(昭和4)	リノカット・紙	
30※	前川 千帆 『野外小品』バラソル	1929(昭和4)	リノカット・紙	
31※	前川 千帆 『野外小品』風	1932(昭和7)	リノカット・紙	
32※	川上 澄生 『東京回顧図会』・夜の銀座	1945(昭和20) (原版制作:1929(昭和4))	木版・紙	
33※	前川 千帆 『東京回顧図会』・新宿の夜	1945(昭和20) (原版制作:1931(昭和6))	木版・紙	

※は北海道大学農学部蔵 *は北海道立近代美術館蔵 ☆は高輪画廊蔵 無印は当館蔵

尖端・猟奇・グロテスク				展示室3
作家名	作品名	制作年	技法・材質	
34※	恩地 孝四郎 人体、少女	1925(大正14)	木版・紙	
35※	恩地 孝四郎 女体考察	1927(昭和2)	木版・紙	
36※	川上 澄生 賭博者	1925(大正14)	木版・紙	
37	三岸好太郎 マリオネット	1930(昭和5)	油彩・キャンバス	
38	三岸好太郎 道化	1930-31(昭和5-6)頃	油彩・キャンバス	
39	三岸好太郎 道化役者	1932(昭和7)	油彩・キャンバス	
40	三岸好太郎 悪魔	1932(昭和7)	油彩・キャンバス	
41	三岸好太郎 少女の首	1932(昭和7)頃	油彩・キャンバス	
42	三岸好太郎 見物客	1933(昭和8)	コラージュ・紙	
(1932年の三岸好太郎)				階段踊り場/2階図書コーナー
43	三岸好太郎 金蓮花	1932(昭和7)	油彩・キャンバス	
44☆	三岸好太郎 南部の跳躍	1932(昭和7)	水彩・紙	
流入する西洋の同時代				展示室4
45※	ハイム・スーチン 祈る男	1921頃	油彩・キャンバス	
46※	ジョルジュ・ルオー 聖なる顔	1939	油彩・板に貼った紙	
47※	国吉 康雄 横たわる裸婦	1929(昭和4)	油彩・キャンバス	
48※	ジュル・バスキン 二人のモデル	1924	油彩・キャンバス	
49	三岸好太郎 裸婦 B	1932(昭和7)	油彩・ボール紙	
50	三岸好太郎 乳首	1932(昭和7)	油彩・キャンバス	
新しき時代へ				展示室5
51※	山内 弥一郎 運河	1927(昭和2)頃	絹本彩色	
52※	片岡 球子 法林寺の姉妹(ふたり)	1933(昭和8)頃	紙本彩色	
53※	岩橋 英遠 都無ぢ	1940(昭和15)頃	紙本彩色	
54	三岸好太郎 コンポジション	1933(昭和8)頃	油彩・キャンバス	
55	三岸好太郎 花	1933(昭和8)頃	油彩・キャンバス	
56	三岸好太郎 のんびり貝	1934(昭和9)	油彩・キャンバス	
57	三岸好太郎 飛ぶ蝶	1934(昭和9)	油彩・合板	
	青井 東平 (原型製作)	三岸好太郎デスマスク 1934年石膏原型 1999年ブロンズ鑄造	ブロンズ	

* 当館は新型コロナウイルス感染拡大防止運動の一環として、北海道ソーシャルディスタンスの取り組みを行っております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。